

2016（H28）年度 財政部会活動反省～次年度に向けて

2016（H28）学校間連携会議総括・評価表を基に部会で協議しました。

1. 「学校事務に関する共通・重点要望書」について

今年度、共通・重点要望として取り組んだ項目

①学校配当予算の経常経費 特に教育振興費の消耗品費

②保護者負担軽減

③教材・図書^{の整備}

※学校教育活動交付金、教育・校務・地域イントラネットの充実、学校内外(教職員住宅)の施設維持管理については、学校の要望に応じて適宜対応する。

共通・重点要望は、概ね計画通りできた。協議は 10/26（水）両係長、事務局と財政部会で行った。

・管理係～現地調査は行ったが、ヒアリングがなかった。文書の回答は初めてだったが、良かった。

・学務係～普段からの情報交流に加え、ヒアリングの中で要望を伝えることができた。

②の保護者負担軽減については、3の白書運動で取り組み、おおむね予定通り作成できた。

→今後への改善点など

(1) ヒアリング・現地調査～学校に来てもらい、児童の学んでいる環境を見てもらいたい。

事務局とも協議しながら年間計画に組み込んでいきたい。来年の4月の経理担当者会議の頃までに、事務局・市教委も含めて協議が必要。

(2) 保護者負担軽減について～3の白書運動で取り組み、予算要望につなげていく。今後は市教委にも入ってもらい、共通理解を深めていく。

(3) 追加調査、継続したとりくみへ

各学校の印刷システム、印刷関係予算について、実態調査を追加。

1/12の管理係との打ち合わせを基に、4～8月で各種とりくみを行う。

具体的に

「プリントフリー」のデモを実施 別紙、部会で提案

デモを行う前に、この期間にチェックする項目、効果、職員や保護者等からの意見、要望等の評価表の作成が必要。

(4) 次年度以降の予算の増額にむけて

管理消耗品費～印刷にかかる経費を別枠で予算措置することによって、その分の増額を目指す。

教育振興費～教材費の、テスト代等の保護者負担の解消がされるような手立てを構築。各学校で図書担当者との相談、校内全体での協議も必要。

(5) 学校図書館機能の充実

平成29年度からの学校図書館関係の地方財源措置の活用を要求する。学校現場の実態を詳細に伝え、図書館機能（図書標準の達成、新聞購読、学校司書の配置等）充実を。各学校で図書担当者との相談、校内全体での協議が必要。

- ・図書館機能充実では、まず、学校司書の配置について優先的に取り組みたい。また、学校司書配置への思いについて、市教委と意思統一が必要。旭川市や東川町など配置されている学校への視察等も行っても良いのでは。
- ・現在の読み聞かせボランティアを有償にし、図書室の仕事を依頼するのも一方策か？

(6) 学校個別課題の共有化

積極的に早目（1学期中には）の交流をし、全体で共有出来るよう取り組む。

2. 教育予算実態把握～教育振興費・教材整備等

※義務教育無償、保護者負担解消の取り組みの継続。そのための、市費予算の増額のための新たな手立ての構築。

(1) デジタル教科書整備状況調査～**中断**

小学校が3年、中学校が2年経ち、各校対応していただけているのでは。今後も個別対応。

(2) 平成27・28年度購入指定教材調査～**継続**

一覧表にして交流、各学校の様子分かるのが良い。整備の際に参考になったり、意見が欲しいときなどに役立てられる。

→今後への改善点など

- (1) 市費予算の増額のための他市町村との比較調査など～PFシートの他市町村との交流を及び、士別市、名寄市・旭川市など上川管内の市町村を中心に比較調査をできないか？ 要検討。
比較する内容は、主に教育振興費消耗品費、児童・生徒用図書整備費等について

3. 教育予算白書運動について

※特に保護者負担軽減へ向けての活動を重点的に～**継続**

ただし、重点及び共通要望の取り組みと連動させるために、取り組み時期は、4～8月で。また、年度末の学校評価・反省から、現在の配当予算で取り組める部分は、H29年校内予算編成の際に個々の学校で取り組むことは可。

→今後への改善点など

- (1) PFシートについては、状況把握に役立てたほか、共通予算要望にも生かすことができた。
校内でPFシート活用について交流をしてみるのも良いのでは。
- (2) 中学校の学力テストについては、小規模校は学校予算で出せるので、大規模校分を公費化してもらい、保護者負担0で平等化してもらえたら。
- (3) H28の実態把握の活動時期として、2月にも取り組めるが、4～5月実施でも良いのかもしれない。

4. 管理備品・指定教材等の調査について

継続 基本的に今年度と同じ流れで活動を行っていきたい。

① 備品整備の際の「管理備品」と「指定教材備品」について

- ・備品の修繕・整備の際には昨年度作成したものを活用し、追加等あれば委員会（管理係・学務係）と学校で適宜協議し、内容を更新する。
- ・富実への掲載を検討する。

② 更新・在庫一覧作成と活用

- ・机椅子について
各校より使用・在庫数をデータ収集し、一覧を更新する。年度途中に移動があれば、その都度更新する。
- ・機器更新一覧について（コピー機・印刷機・シュレッダー・パソコン・芝刈り機・刈払い機等）

→今後への改善点など

(1) H29年度始めに机・椅子の不足が出そうな場合は、データで予備を調べて学校間で対応してもらいか、サイボウズで呼びかけてもらう。

(2) 機器更新一覧については、次年度（H29）も更新予定を確認する。その後、データを更新する。
ローテーションを早めるなど、時期的なことについての協議も必要。

5. 努力目標について（総括・評価表から）

富良野スタンダードの構築に向けて、①子どもアンケートや②保護者向け事務だよりを全ての学校で実践したい。

次年度は、この①と②について、連携部会、情報部会とも協議し、実践をすすめる。
主な担当をどこにするかは、今後に。

6. その他

市費配分予算の運用については、実施せず。次年度、連携部会での集約があれば交流をし、各学校の執行に活かす。一昨年度の調査からは、主に次の観点で。

- ・学校として備えるべき消耗品の充実及び更新
- ・児童生徒用図書購入整備について 教育振興費消耗品費とあわせて